



潮流

七月二十五日に青少年育成推進本部は、年末に改定する青少年育成施策大綱の骨子を決定しました。今回の改定では子どもを育てる家庭にも支援の光を当て、非営利組織（NPO）や教育・福祉関連企業の協力も得ながら、保護者に積極的に働きかけることにも力を入れています。

松田 隆

NPO法人未来副理事長、
鳥取県中部医師会副会長

ています。そして、その対応策として、地方自治体、学校、NPOなど地域のネットワークを活用し、関係機関が協力して、しつけや教育をやり直す「育て直し」を支援する方針を新たに打ち出しています。

育ち直り

ています。そして、その家庭にまで踏み込んで、対応策として、地方自治体、学校、NPOなど地域のネットワークを活用し、関係機関が協力して、しつけや教育をやり直す「育て直し」を支援する方針を新たに打ち出して います。

子どもの問題は、決して子どもだけの問題ではなく、大人の抱える問題であります。たものはあまりなかった乳幼児期の教育を重視し、乳幼児期の教育を重視し、

を感じ、大きく勇気づけられ成長していくことも書かれています。一方、教育再生懇談会の冒頭には「活力ある日本、世界に貢献する日本を支えるのは人である」と書かれ、人を育てる教育に重点を置くことが不可欠です。

とふれあい、どんな人に
対しても、分け隔てなく
ほほえみかける赤ちゃん
の笑顔によって、生徒た
ちは自分の生まれてきた
原点を見つめなおし、自
分も赤ちゃんの役に立て
るという「役立ち感」を
実感し、自尊感情を高め、

大綱 策定に向けた意見を八月二十四日まで募集しています。子どもの未来、ひいては将来の日本を担う施策に対して、ぜひ多くの皆さん意見を出すことが大切だと思います。

その中で、核家族化や 幼少期の家庭環境すな
共働き世帯が増えたこと わち生育歴がその後の子
で子どもと両親とが一緒に 生の成長過程に大きく
過ごす時間が減り、家 影響することから「育て
庭の子どもを育てる役割 直し」が必要とされてき
や教育力が低下し、子ど ています。今まで幼少
もの不登校やひきこも 期の家庭環境が大切であ
り、ニートなどにつながることは言われてきました
っていることが指摘され たが、国の施策の中で、

ないます。そういう意味で、子どもだけにやり直しを押し付ける「育て直し」ではなく、大人自らが振り返って反省する「育ち直り」も必要だと思います。

今年五月に、この大綱の策定の参考とするた

先日、赤ちゃんとのふれあいの中で、ある中学生が「赤ちゃん」とふれあうことでの心が癒やされる」ということを言っていました。まさしく、赤ちゃんには人を素直な気持ちにさせ、癒やす能力があるのではないかと思われます。この中学生が言つたように、赤ちゃんの特性を十分理解し、その癒やしの力をうまく利用すれば、不登校やひきこもり、人たちにも、子どもに限らず、誰もが「育つ」ことになるのです。

先日、赤ちゃんとのふれあいの中で、ある中学生が「赤ちゃんとふれあうこと」で心が癒やされ、「うる」ということを言っていました。まさしく、赤ちゃんには人を素直な気持ちにさせ、癒やす能力があるのではないかと思っています。お母さんが母乳をあげたり、オムツを替えたり、周りの人から手助けしてもらわなければ生きていけない赤ちゃんとふれあい、どんな人に對しても、分け隔てなくほほえみかける赤ちゃんの笑顔によって、生徒たちは自分の生まれてきた原点を見つめなおし、自分も赤ちゃんの役に立てるという「役立ち感」をもたらすことがあります。

この中学生が言つたように、赤ちゃんの特性を持つて、十分理解し、その癒やしの力をうまく利用すれば、不登校やひきこもり、心の発達に障がいを持つ人たちにも、子どもに限らず大人の「育ち直り」にも、十分な効果が得られる取り組みができると思います。政府は、この新しい「青少年育成施策」と大綱一策定に向けた意見を八月二十四日まで募集しています。子どもの未来、ひいては将来の日本を担う施策に対しても、ぜひ多くの皆さんのが意見を出し、ひいては将来の日本を担う施策に対して、ぜひ多くの皆さんが意見を出しことが大切だと思ふ